三浦環（1884～1946）生誕140年記念

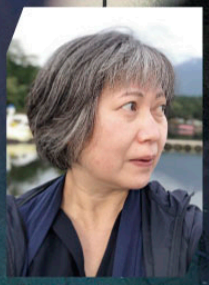
三浦環の シューベルト 冬の旅

新発見の訳詞・録音史料に基づく
再現演奏と語りでおくる
プリマ・ドンナの人生と芸術

小林 沙羅
/ ソプラノ /

河野 紘子
/ ピアノ /

吉田 孝
/ 語り /



大石 みちこ
/ 脚本 /

早坂 牧子
/ 企画 /

本邦初の国際的オペラ歌手、三浦環が生涯最後に自らの訳詞で歌った
シューベルト《冬の旅》全24曲。
生誕140年の今年、縁の旧東京音楽学校奏楽堂に蘇る―

2024 11/29（金）

17：30開場 18：30開演（20：00終演予定 / 休憩なし）

旧東京音楽学校奏楽堂（上野公園内）

Ticket 一般：前売 2,500円 当日 3,000円 学生：1,000円

※未就学児入場不可
※学生券の方は当日学生証提示のこと

チケットお申し込み

イープラス » https://eplus.jp/
チケットぴあ » https://t.pia.jp/（Pコード：276743）
Confetti（カンフェティ） » https://www.confetti-web.com/events/

ACCESS

JR「上野駅」公園口から徒歩約10分
東京メトロ銀座線 日比谷線「上野駅」から徒歩約15分
京成「上野駅」から徒歩約15分

◆主催：三浦環のシューベルト《冬の旅》制作実行委員会
◆助成：日本音楽学会音楽関連学術イベント助成金
公益財団法人ロームミュージックファンデーション
台東区芸術文化支援制度
日本学術振興会科学研究費助成事業
◆後援：東京藝術大学音楽学部同声会
◆制作協力：岩神六平事務所

科研費 KAKENHI
Rohm Music Foundation ロームミュージックファンデーション
台東区芸術文化支援制度

◆特設サイト：https://miuratamaki-winterreise.com »

お問い合わせ
Email：miura.tamaki2024@gmail.com（早坂）/ Tel：046-876-0712（岩神六平事務所）

本公演は代表者が日本学術振興会科学研究費助成事業より助成を受けて実施する20K12896「三浦環の歌：録音と演奏評分析による20世紀初期日本人声楽家の歌唱スタイル考察」成果発表の一環です。

1946年4月5日、オペラ歌手三浦環は、病躯をおして臨んだ生涯最後の録音で、フランツ・シューベルトの連作歌曲《冬の旅》全24曲を自らの訳詞で歌いました。長らく所在不明であったこの時の音源と、訳詞の掲載された1944年の演奏会プログラムが近年発見され、環が晩年に歌った《冬の旅》の全体像が没後初めて明らかとなりました。オペラ歌手らしい劇的な表現と、和語を多用した現代の耳にも分かりやすい訳詞は、当時の演奏実践を伝える貴重な史料であるだけでなく、日本ならではの《冬の旅》の演奏形態として、今なお新鮮な魅力を放っています。

本公演は、残された録音とプログラムに基づいて環の歌った《冬の旅》の演奏を再現すると共に、今を生きる我々が彼女との対話を通して新たな《冬の旅》を創造する試みです。演奏に、オペラ・歌曲共に定評のあるソプラノ歌手、小林沙羅と、多くの歌手から満幅の信頼を集める伴奏の名手、河野紘子。曲間には、脚本家の大石みちこ書き下ろしの台本による環の夫・政太郎の語り（吉田孝）が加わり、環の人生を辿る旅としてシューベルト《冬の旅》を再構成します。

ジャコモ・プッチーニのオペラ《蝶々夫人》で名声を得た三浦環が、人生の終わりに自らの訳詞で歌うことを選んだシューベルトの《冬の旅》——生誕140年を記念し、彼女がかつて日本初のオペラ公演《オルフォイス》でデビューを果たした旧東京音楽学校奏楽堂の舞台で、三浦環最後の芸術と人生を振り返ります。

公演日の2024年11月29日（金）は、奇しくもプッチーニ100回目の命日。偉大なオペラ作曲家プッチーニと、彼の賛辞を受けた日本人初の「蝶々さん」の功績に思いを馳せながら、三浦環による《冬の旅》の世界をお楽しみください。

小林 沙羅 / ソプラノ / Sara KOBAYASHI

東京藝術大学卒業。同大学院修士課程修了。2010年度野村財団奨学生、2011年度文化庁新進芸術家在外研修員。2014年度ロームミュージックファンデーション奨学生。2010年から2015年にはウィーンとローマにて研修と演奏活動を行う。2012年ブルガリア国立歌劇場で欧州デビュー。『夕鶴』『紅天女』『フィガロの結婚』他多くのオペラで主演を務める。2019年ロンドンのウィグモアホールにてソロリサイタルを開催。NHK「ニューイヤーオペラコンサート」、テレビ朝日「題名のない音楽会」、テレビ東京「ジルベスターコンサート」等メディアにも多数出演。日本コロムビアよりCDアルバム「花のしらべ」、「この世でいちばん優しい歌」、「日本の詩（うた）」をリリース。第27回出光音楽賞、第20回ホテルオークラ賞受賞。日本声楽アカデミー会員。藤原歌劇団団員。大阪芸術大学准教授。

河野 紘子 / ピアノ / Hiroko KOHNO

桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学を経て同大学研究科を修了。これまでに桐朋学園大学声楽科嘱託演奏員、二期会研修所ピアニストとして勤務。アンサンブルに定評があり、「ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン」「東京・春・音楽祭」などの音楽祭に出演。ソプラノ歌手小林沙羅氏のアルバムや数々の合唱団との収録など、CD 録音にも多数参加。歌曲とピアノソロを交えたセルフ・プロデュースコンサート「詩が音をまとう時」や、ジャンルを超えたクリエイターたちと共に映像作品を製作するなど、企画力も高く評価されている。またドラマ・映画「のだめカンタービレ」の主人公（上野樹里）の手・音の吹き替え、現場での指導を担当するなど多方面で活動の幅を広げている。

吉田 孝 / 語り / Takashi YOSHIDA

ワールドカップバレー'95場内アナウンスでデビュー、ダビスタ実況アナとして東京ゲームショウなどに出演。その後、代表作となるCX『スーパーニュース』のナレーターを14年間務める。現在「今日もあなたの一番うまいになる」KIRIN『本麒麟』を筆頭に、数多くのCMナレーションを担当。声優としても映画『タイタニック』を始めとする洋画吹替え作品、アニメ『ダイヤのＡ』、『おそ松さん』、朝ドラ『ちむどんどん』などに出演している。コンサートMCや朗読と云ったステージ活動にも精力的で、これまで多くのプロオーケストラやアンサンブル団体と共演し、何れも好評を博す。フジテレビ「アナトレ」、芸劇オーケストラアカデミー他、各種ワークショップで後進の指導にも当たっている。

大石 みちこ / 脚本 / Michiko OISHI

東京藝術大学美術学部卒業。会社勤務を経て2005年、東京藝術大学大学院映像研究科映画専攻脚本領域入学、2007年同修了。主な脚本執筆作品に映画『東南角部屋二階の女』（池田千尋監督）、映画『ゲゲゲの女房』（鈴木卓爾監督）、映画『ドライブイン蒲生』（たむらまさき監督）、アニメーション『ヒバクシャからの手紙—貴女へ—』（いまばやしゆかり監督）、NHKスペシャル『星影のワルツ』、NHK・FMシアター『口ずさんでシャンソン』等がある。映画『ライク・サムワン・イン・ラブ』（アッバス・キアロスタミ監督）では日本語台詞監修をつとめた。2022年、ノンフィクション『奇跡のプリマ・ドンナ～三浦環の声を求めて～』KADOKAWA刊を出版。2023年4月より東京藝術大学大学院映像研究科映画専攻教授。

早坂 牧子 / 企画 / Makiko HAYASAKA

国際基督教大学、東京藝術大学大学院を経て、ブリストル大学大学院博士課程修了（PhD, Musicology）。現在、日本学術振興会科学研究費助成事業「三浦環の歌：録音と演奏評分析による20世紀初期日本人声楽家の歌唱スタイル考察」に取り組むほか、英国のオルガン音楽、19～20世紀英米大衆文化、日本歌曲における詩と音楽、ミュージカルと宝塚歌劇における音楽劇作法、音大生のための英語教育などのテーマで研究・実践・教育活動を展開している。詩と音楽のコラボレーション集団 VOICE SPACE メンバー。東京音楽大学ミュージック・リベラルアーツ専攻准教授。山中湖村芸術文化アドバイザー。

三浦 環 / ソプラノ：1884～1946 / Tamaki MIURA

旧東京音楽学校で声楽を学び、1903（明治36）年、同校奏楽堂で催された日本初のオペラ公演グルック作《オルフォイス》百合姫役でデビュー。帝国劇場などの舞台や、レコードの吹込で活躍した後、1914（大正3）年、夫・政太郎の留学に伴って渡欧。ロンドンのロイヤル・オペラ・ハウスで日本人として初めてプッチーニのオペラ《蝶々夫人》に主演し、大成功を収める。翌年渡米し、《蝶々夫人》《イリス》《浪子さん》《お菊さん》などに主演、世界各地で演奏活動を行う。《蝶々夫人》の演奏回数は2,000回を超すとも。透明感のある声質と、日本舞踊を基礎とした美しい所作が聴衆を魅了し、プッチーニには「私の理想の蝶々さん」と評された。1935（昭和10）年に帰国後、精力的な演奏活動の傍ら後進の指導にも力を入れる。1944（昭和19）年、山梨県山中湖村に母・登波と疎開。終戦直後、病躯をおして日比谷公会堂で歌った自らの訳詞によるシューベルトの《冬の旅》と《美しき水車小屋の娘》は、壮絶な絶唱であったと伝わる。1946（昭和21）年4月に《冬の旅》と《蝶々夫人》他を録音。同年5月26日に世を去るまで、日本声楽界の支柱であり続けた。